

国立国語研究所学術情報リポジトリ

国立国語研究所研究活動一覧（平成11年度）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立国語研究所 公開日: 2024-11-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/0002000343

国立国語研究所
研究活動一覽
(平成11年度)

*Annual Report of Research Activities
The National Language Research Institute
April 1999 - March 2000*

国立国語研究所

国立国語研究所
研究活動一覽
(平成11年度)

*Annual Report of Research Activities
The National Language Research Institute
April 1999 - March 2000*

国立国語研究所

『国立国語研究所研究活動一覧（平成11年度）』について

国立国語研究所では平成7年から9年にかけて『国立国語研究所研究発表資料集』を作成しました。平成10年度からは、その機能を整理・継承する形で『国立国語研究所研究活動一覧』を作成しています。本資料は、その平成11年度版です。

本資料は、(1)研究職員の研究活動を所内外へ向けて公開すること、(2)外部評価の補助資料とすること、を目的に作成したものです。当該期間における研究職員の成果物である報告書や研究論文等の書誌情報の一覧とともに、個々の研究職員が研究所で行っている研究・事業の課題名、研究所運営に関わるさまざまな業務などを示すことにより、研究職員がどのような研究活動を行っているか、その全体像を広く知っていただくことを企図したものです。なお、研究論文等の具体的内容（本文）につきましては、掲載雑誌等を別途ご参照くださるようお願いいたします。

本資料の巻末には、研究部会議（研究職員による研究所内部の会議）における研究発表、所内の委員会ならびに委員、見学者、平成11年度研究所刊行物などについて、それぞれの一覧を掲載しています。

なお、国立国語研究所のホームページでも、本資料と同様のものがご覧いただけます（<http://www.kokken.go.jp/public/katudo/itiran/top.html>）。

凡 例

- ・ 部を単位として、各研究職員の研究活動を示しています。
- ・ 各研究職員の活動内容の項目分類は、数字・アルファベットで示しています。それぞれの指すところは、各ページの下に掲載しています。
- ・ 平成11年4月1日以降に職員になった者については、採用日から平成12年3月までを対象期間としています。また、本年度中に転出した者については、在職している期間を対象期間としてあります。
- ・ 研究職員によっては、特定の欄が設けられていないことがありますが、これは該当する情報がなかったことを示しています。
- ・ 個人ごとの情報のページには、刊行物に関する委員会を除き、所内の委員会活動への参加の情報は省略しました。うしろの「平成11年度所内委員会委員一覧」の項をご参照ください。

※ この一覧に挙げたもののほかに所員全員で対応しているものに、ことばの質問・問い合わせ・見学者への対応などがあります。

※ この一覧は、『国立国語研究所研究活動一覧』作成委員会が、基本的に各研究職員から寄せられた情報をもとに編集しました。個々人の判断などで、必ずしも網羅的ではない面や不統一があります。利用にあたってはその点にご留意ください。

目 次

目 次

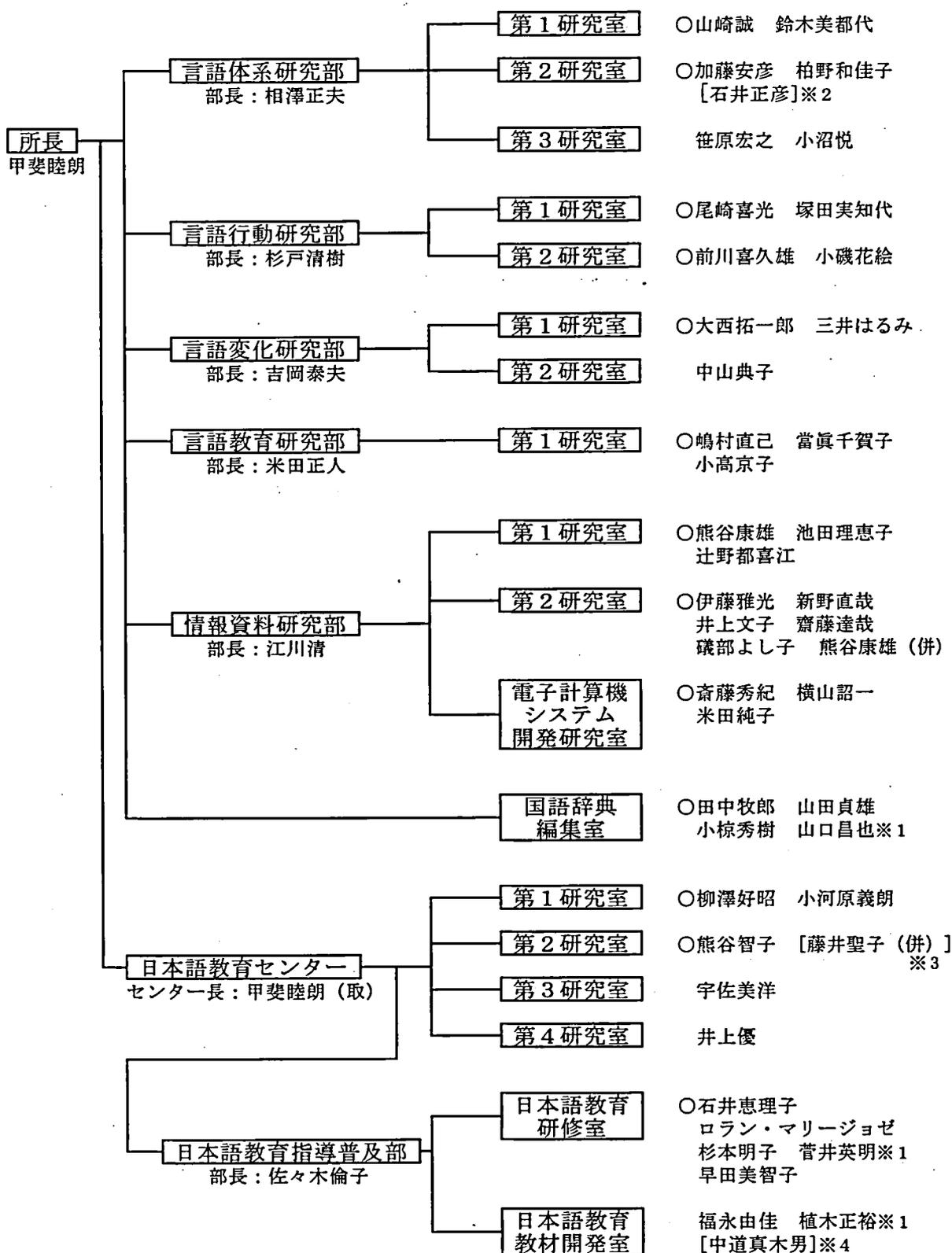
『国立国語研究所研究活動一覧（平成11年度）』について

凡 例

研究機構	3
平成11年度研究活動一覧	7
所長	7
言語体系研究部	8
言語行動研究部	12
言語変化研究部	16
言語教育研究部	18
情報資料研究部	19
国語辞典編集室	23
日本語教育センター	25
日本語教育センター 日本語教育指導普及部	30
平成11年度研究部会議・研究発表一覧	39
平成11年度所内委員会委員一覧	40
平成11年度見学者一覧	42
平成11年度招へい研究員一覧	43
平成11年度外国人研究員等受入一覧	44
平成11年度外国出張一覧	45
平成11年度国立国語研究所刊行物一覧	49

研 究 機 構

研究機構 (平成13年1月1日現在)



(注1) ○印は室長

(注2) ※1 平成12年4月1日以降に職員になった者で、今回の採録対象とならない者

※2 平成11年9月30日転出

※3 平成12年3月31日併任終了

※4 平成12年3月31日転出



平成11年度
研究活動一覽

所長

甲斐睦朗

2. A. 「連載 国立国語研究所の紹介」『国語研の窓』国立国語研究所 1999年8月～
『日本語基本語彙—文献解題と研究—』国立国語研究所報告 116 2000年3月
- B. 『国語科教育の理論と実践』(監修)現代教育社 1999年4月
「I・2・(1)言語の教育としての国語科」『小学校新教育課程の解説』(共著)
第一法規 1999年7月
『改訂 小学校学習指導要領の展開 国語科編』(共編著)明治図書 1999年8月
- C. 「21世紀への国語教室」(連載全5回)『実践国語研究』195・197・199・201・203・
205 明治図書 1999年5月～2000年3月
「忘れられない言葉」より、「言葉のおくゆかしさ」『国語教育相談室』54
光村図書 1999年9月
「巻頭言 何が国語科の基礎・基本か」『国語教育研究』333 日本国語教育学会
2000年1月
『日本語で生きるとは』(片岡義男著)の書評」共同通信社配信 2000年2月
「特別連載「言葉をたずねて」より,第1回「常用漢字に対する国民の意識」
『週刊文教ニュース』文教ニュース社 2000年2月
「英語公用語化論に思う—懸念される日本語能力低下—」共同通信社配信
2000年3月
「地域独自の教育実践が拓いた言語能力の育成」『実践国語研究』別冊 206
明治図書 2000年3月
「どのように言語の教育として国語科を確立するのか」『国語科授業創造』31
光文書院 2000年3月
- E. 「ことばの意味を調べよう」ことばフォーラム 1999年11月
3. イ. 座談会司会『新「ことば」シリーズ 11 豊かな言語生活のために』
国立国語研究所 2000年3月
4. ア. 国語審議会委員(第3部会)
学術審議会学術用語分科会専門委員
学術審議会科学研究費分科会審査第1部会人文・社会系小委員会委員
国文学研究資料館評議員会評議員
農林水産省命名登録審査会委員
(社)国際日本語普及協会評議員会評議員
(財)教育研究振興会評議員
(財)博報児童教育振興会博報賞審査委員会委員長
日本貿易振興会ビジネス日本語能力テスト協力機関会議委員
旺文社全国学芸科学コンクール最終審査委員会委員
国際交流基金日本語国際センター事業協力委員会委員
国際交流基金北京日本学術研究センター協力委員会委員
- イ. 全国大学国語教育学会理事
表現学会理事
5. 「言葉をきずなとして学ぶ」千代田区立麹町小学校研究発表会
「自分を表し学び合う子—言語活動を通して—」 2000年1月

※ 項目分類の記号については、次ページ下欄を参照。

言語体系研究部

相澤正夫（部長）

1.
 - ・現代雑誌200万字言語調査
 - ・日本人の話しことばに関する総合的研究
 - ・音声によるパラ言語情報の伝達メカニズムに関する実験的研究
(科学研究費 基盤研究(B)分担者)
2. A. 『新「ことば」シリーズ11 豊かな言語生活のために』国立国語研究所
2000年3月
『新「ことば」シリーズ12 言葉に関する問答集—言葉の使い分け—』
国立国語研究所 2000年3月
『国語研の窓』
C. 「新刊・寸感」『日本語学』18-8 明治書院 1999年7月
「新刊・寸感」『日本語学』19-1 明治書院 2000年1月
「研究発表会の実をあげるために」『国語学』200 2000年3月
D. 「パラ言語的意味の記述に向けて」『日本語 意味と文法の風景 —国広哲弥教授古稀
記念論文集—』ひつじ書房 2000年2月
3. ア. 国際シンポジウム第4専門部会
イ. 『新「ことば」シリーズ』の編集協力
4. イ. 日本音声学会評議員・編集委員
査読 国内雑誌 4件
ウ. 大東文化大学外国語学部日本語学科 非常勤講師

山崎誠（第1研究室室長）

1.
 - ・現代雑誌200万字言語調査
 - ・複合辞の意味・用法の記述的研究
 - ・記述的日本語研究のための電子化コーパスの試作と活用の研究
(科学研究費 基盤研究(C)代表者)
2. F. 「文法研究における用例と作例」第43回計量国語学会大会 筑波女子大学
1999年9月
「複合辞用例集の作成について」第4回複合辞研究会 国立国語研究所
1999年10月
「日本語文型研究資料としての英和辞書の活用—小学館『プログレッシブ英和中辞典』
(第3版)の動詞の意味記述の利用」JACET英語辞書研究会第3回ワークショップ
園田学園女子大学 1999年12月
4. ア. 言語資源共有化機構(GSK)準備委員会委員
イ. 計量国語学会委員
査読 国内雑誌2件

鈴木美都代（第1研究室研究員）

3. イ. 『日本語科学』
1. 担当研究・事業課題名(科研費も含む)
2. 成果公表活動

A. 国立国語研究所を刊行もととするもの	B. 所員が執筆・編集した単行本
C. 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文	D. 論文集等に掲載された論文
E. 口頭・ポスター発表(予稿集あり)	F. 口頭・ポスター発表(予稿集なし)

加藤安彦（第2研究室室長） ※平成12年4月1日国語辞典編集室室長から配置換

1.
 - ・国語辞典編集室コーパスの作成
 - ・話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく「話し言葉工学」の構築（科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度課題）
2. A. 「一事業の新展開－国語研コーパスの構想」『国語研の窓』第2号
国立国語研究所 2000年1月
- C. 「国語辞典編集のための用例データベース（共著）」『日本語科学』5
国立国語研究所 1999年4月
- E. “Automatically Compiling Multilingual Translations from the World Wide Web”
（共同発表）International Symposium on Machine Translation & Computer Language
Information Processing, China: Beijing 1999年6月
「はなし言葉コーパスにおける単位切りと品詞付与の方法」（共同発表）
言語処理学会第6回年次大会 北陸先端科学技術大学院大学 2000年3月
- F. 「国立国語研究所国語辞典編集室における品詞について」
言語資源共有機構運営委員会 東京・機械振興会館 1999年7月
「欧州言語資源調査報告」言語資源共有機構運営委員会 東京・機械振興会館
2000年1月
「国立国語研究所におけるコーパス作成プロジェクト概要」
言語資源共有機構運営委員会 東京・機械振興会館 2000年1月
4. ア. 日本電子工業振興協会言語資源共有機構運営委員
言語資源共有機構標準化ワーキンググループ主査
- イ. 電子情報通信学会『言語理解とコミュニケーション』研究専門委員
社会言語科学会事業委員
言語処理学会理事
- ウ. 文教大学文学部 非常勤講師

石井正彦（第2研究室室長） ※平成11年10月1日転出

1.
 - ・現代雑誌200万字言語調査
2. A. 『新「ことば」シリーズ12 言葉に関する問答集－言葉の使い分け－』
国立国語研究所 2000年3月
- C. 「文章における『臨時一語化』と『脱臨時一語化』－脱臨時一語化の形式を中心に－」
『日本語研究』19 東京都立大学 1999年4月
- D. 「阪倉篤義の『語構成論』 佐藤武義編『語彙・語法の新研究』 明治書院
1999年9月
4. ア. ISO/TC37 国内委員会委員
- イ. 国語学会編集委員
情報知識学会編集委員

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

柏野和佳子（第2研究室研究員）

1.
 - ・現代雑誌200万字言語調査
 - ・話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく「話し言葉工学」の構築（科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度課題）
 - ・動詞の多義性解消過程解明のための形態・連語・文脈情報の抽出に関する研究（科学研究費 奨励研究(A)代表者）
 - ・外来語概観調査
 2. C. 「情報処理研究とターミノロジーから見た『分類語彙表』—分類の体系と専門語の扱い—」（共著）『情報知識学会誌』 Vol.9 No.4 情報知識学会 2000年2月
 - D. 「毎日新聞に対する意味タグ付与」（共著）『研究会開発用知的資源タグ付きテキストコーパス報告書』技術研究組合新情報処理開発機構 2000年3月
 - 「岩波国語辞典に対する意味タグ付与」（共著）『研究会開発用知的資源タグ付きテキストコーパス報告書』技術研究組合新情報処理開発機構 2000年3月
 - E. 「共起情報の辞書記述方法—解析と生成の視点を同時にもつ記述方法の提案—」電子情報通信学会言語理解とコミュニケーション研究会 東京大学 1999年5月
 - 「国語表現教育のための辞書について」（共同発表）語彙・辞書研究会 第15回研究発表会 三省堂文化会館 1999年6月
 - 「はなし言葉コーパスにおける単位切りと品詞付与の方法」（共同発表）言語処理学会第6回年次大会 北陸先端科学技術大学院大学 2000年3月
4. ア. 情報処理振興事業協会(IPA)独創的先進的情報技術に係わる研究開発「計算機用日本語生成辞書IPAL(SURFACE/DEEP)の研究」プロジェクト 新情報処理開発機構(RWC)「コーパスの作成と公開に関するワーキンググループ」
 - ウ. 大妻女子大学短期大学部日本文学科 非常勤講師

笹原宏之（第3研究室主任研究官）

1.
 - ・現代雑誌200万字言語調査
 - ・新聞6億字の言語調査と日本語学習者へのWeb出版によるデータ提供（科学研究費 基盤研究(C)分担者）
2. A. 『新「ことば」シリーズ12 言葉に関する問答集—言葉の使い分け—』 国立国語研究所 2000年3月
- 『新「ことば」シリーズ11 豊かな言語生活のために』 国立国語研究所 2000年3月
- 「暮らしに生きることば」『国語研の窓』第3号
- B. 『悠悠パソコン漢字術』（共著）文字鏡研究会編 紀伊国屋書店 1999年4月
- 『岩波新漢語辞典』（共同執筆）山口秋穂・竹田晃編 岩波書店 2000年1月
- 『JIS X 0213：2000 7ビット及び8ビットの2バイト情報交換用符号化拡張漢字集合』（共同執筆）日本規格協会編 日本規格協会 2000年2月
- C. 「「々」について」『日本医事新報』3923 日本医事新報社 1999年7月
- 「「づつ」と「づつ」および現代仮名遣い」『日本医事新報』3931 日本医事新報社 1999年8月
- 「文字・図形の認知 —字体と感性—」（共著）『日本語学』8 明治書院 1999年8月
- 「漢字字体に対する大学生の接触頻度」『計量国語学』22-2 計量国語学会 1999年9月

1. 担当研究・事業課題名（科研費も含む）

2. 成果公表活動

A. 国立国語研究所を刊行もととするもの	B. 所員が執筆・編集した単行本
C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文	D. 論文集等に掲載された論文
E. 口頭・ポスター発表（予稿集あり）	F. 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

「転写に伴う漢字字体の変化 — 「JIS 第1水準・第2水準」制定作業の再現—」
池田証壽編『古辞書とJIS漢字』2 1999年10月
「「花」の字について」『日本医事新報』3943 日本医事新報社 1999年11月
「「龍」「竜」にみる字体の併用の実態とその原因 — 歴史・メディア・用法・意識・
行動の各面から—」『国語学 研究と資料』23 早稲田大学国語学研究と資料の会
1999年12月

D. 「日本の文字は二一世紀にどう変化するか」『これからどうなる21 予測・主張・夢』
岩波書店編集部編 岩波書店 2000年1月

4. ア. 社団法人情報処理学会文字コード標準体系検討専門委員会委員
財団法人日本規格協会符号化文字集合JIS調査研究委員会委員

イ. 査読 国内雑誌1件

ウ. 早稲田大学文学部 非常勤講師
文化女子大学文学部 非常勤講師

5. 「揺れる漢字 上 再現テスト」『朝日新聞』 1999年7月
NHKテレビ放送『日本人の質問』解答作成 1999年4月

小沼悦（第3研究室研究補助員）

1. ・現代雑誌200万字言語調査

3. イ. 『国立国語研究所活動一覧（平成10年度）』

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

言語行動研究部

杉戸清樹 (部長)

1.
 - ・言語行動の多様性に起因する言語問題についての研究領域の創成
 - ・話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく「話し言葉工学」の構築 (科学技術振興調整費開放的融合研究制度)
 2. A. 「調査の概要」(共著)『ビデオ刺激による言語行動意識調査報告書 分析編』(科研費[新プロ・日本語]第2班国語研チーム報告書) 国立国語研究所 1999年10月
『新「ことば」シリーズ12 言葉に関する問答集—言葉の使い分け』 国立国語研究所 2000年3月
 - B. 「II. 表現行動の基盤」『日本語表現』(共編著) 明治書院 1999年12月
『国語表現I』『高等学校学習指導要領解説 国語編』(分担執筆) 文部省 1999年12月
 - C. 「伝え方の多様性」(6回連載)
「言っちゃ悪いけど」の言語学を(4月号)
「いつ話したらよいか」の言語学を(5月号)
「こんな所でなんですが」の言語学を(6月号)
「なぜ言うのか」の言語学を(7月号)
「手書きですみません」の言語学を(8月号)
「ぶしつけながら前置き無しで」の言語学を(9月号)
『英語教育』大修館書店 1999年4月～9月
「世界のあいさつ言葉の対照研究に向けて: あいさつ言葉への視点」(共著)
『國文學 解釈と教材の研究』44-6 學燈社 1999年5月
「変わりゆく敬語意識: 敬語の役割を考えるために」『月刊言語』28-11 大修館書店 1999年11月
「<これから>の情報と<やりとり>の情報を」『國語學』200号 国語学会 2000年3月
 - E. 「待遇表現行動の多様性」情報処理学会第6回年次大会 北陸先端科学技術大学院大学 2000年3月
 - F. 「現代社会の敬語意識: 言語行動としての敬意表現」学習院大学文学部講話会 学習院大学 1999年7月
「コミュニケーション言語を取り立てるための視点: 言語行動研究からの一つの提案」文化庁日本語教育大会日本語教育研究協議会第5分科会 昭和女子大学 1999年7月
「待遇表現行動の枠組み」第7回国立国語研究所国際シンポジウム第4専門部会 国立国語研究所 1999年12月
3. ア. 第7回国際シンポジウム全体会(司会)
国立国語研究所公開研究発表会(第2分科会コーディネーター)
 - イ. 『新「ことば」シリーズ』編集刊行委員会(委員長)
『国立国語研究所研究発表資料集』編集作成委員会(委員長)
『国立国語研究所平成11年度外部評価報告書』(外部評価実施委員会副委員長)
4. ア. 文化庁「美しく豊かな日本語」普及ビデオ企画委員会委員(主査)
第22期国語審議会専門調査員
文部省 高等学校学習指導要領解説編作成協力者
NHK放送用語委員会専門委員
北京日本学研究中心学位論文評閲委員

1. 担当研究・事業課題名(科研費も含む)
2. 成果公表活動

A. 国立国語研究所を刊行もととするもの	B. 所員が執筆・編集した単行本
C. 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文	D. 論文集等に掲載された論文
E. 口頭・ポスター発表(予稿集あり)	F. 口頭・ポスター発表(予稿集なし)

- イ. 国語学会評議員及び選挙管理委員
日本言語学会委員
社会言語科学会理事及び事業委員長
査読 国内雑誌 2 件
- ウ. 筑波大学日本語日本文化学類 非常勤講師
筑波大学大学院教育学研究科 非常勤講師

5. 明治書院『日本語学』編集委員

尾崎喜光 (第 1 研究室室長)

- 1. 言語行動の多様性に起因する言語問題についての研究領域の創成
- 2. A. 「場面 6 : 確認行動と断わり行動における談話展開様式」
『ビデオ刺激による言語行動意識調査報告書 分析編』(科研費[新プロ]報告書)
国立国語研究所 1999 年 10 月
『新「ことば」シリーズ 12 言葉に関する問答集—言葉の使い分け—』
国立国語研究所 2000 年 3 月
- C. 「中学・高校生の敬語意識」『教育と情報』497 文部省大臣官房調査統計企画課編
1999 年 8 月
「女性語の寿命」『日本語学』18-10 明治書院 1999 年 9 月
「対人的心理距離の東西差—東西の高校生の言語使用に見る—」『日本語学』18-13
明治書院 1999 年 11 月
「電話と言葉のマナー—キーワードは情報化—」『情報交差点ゆうゆう』7
神奈川県青少年総合研修センター編 1999 年 12 月
「<特別連載・言葉をたずねて> [第 2 回] 「先生, 来る?」も許される?」
『文教ニュース』第 1560 号 文教ニュース社 2000 年 2 月
- F. 「すきなんですなあ, おじさん言葉」第 12 回すつきゃねん若者ことばの会
高槻市 1999 年 11 月
- 3. ア. 「ことばフォーラム」(研究室公開) 1999 年 11 月
- 4. イ. 社会言語科学会理事・事務局委員
査読 国内雑誌 1 件
- ウ. 文教大学文学部 非常勤講師
大東文化大学外国語学部 非常勤講師
- 5. 「平成 12 年度小田原市成人学校『ウインターセミナー114』講座『日本語☆再発見』
講師
第 3 回「社会とことば(1)—日本語の男女差—」(2000 年 2 月)
第 4 回「社会とことば(2)—日本語の敬語使用—」(2000 年 3 月)

- 3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
- 4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

塚田実知代（第1研究室研究員）

1. ・言語行動の多様性に起因する言語問題についての研究領域の創成
3. ア. ことばフォーラム 研究室公開「人がかわるとことばもかわる」 1999年11月
イ. 『日本語科学』

前川喜久雄（第2研究室室長）

1. ・日本人の話しことばに関する総合的研究
・話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築
（科学技術振興調整費開放的融合研究制度）
・音声によるパラ言語情報の伝達メカニズムに関する実験的研究
（科学研究費 基盤研究(B)）
2. E. 「パラ言語情報の生成と知覚—多次元尺度法による布置と音響特徴の関係—」
（共同発表）電子情報通信学会技術報告 SP99-05 1999年5月
“Joint estimation of voice source and vocal tract parameters as applied to the study of voice source dynamics”（共同発表）Proceedings of the ICPhS 99 Vol.3 1999年8月
“Contributions of lexical and prosodic factors to the perception of politeness”
Proceedings of the ICPhS 99 Vol.2 1999年8月
「調音運動から見たパラ言語情報の生成」（共同発表）日本音響学会 1999年9月
「パラ言語情報の調音運動への影響—「疑い」と「感心」の比較—」（共同発表）
日本音声学会 1999年9月
「発話の丁寧さの知覚におよぼす語彙的要因と韻律的要因の関係とその社会差」
（共同発表）電子情報通信学会技術報告 TL99-19 1999年10月
“Design of spontaneous speech corpus for Japanese” Proceedings（共同発表）
Proceedings of the International Symposium: Toward the Realization of
Spontaneous Speech Engineering 2000年2月
「共通日本語話し言葉コーパスの設計」（共同発表）日本音響学会 2000年3月
“Articulatory and acoustic correlates of prosodic contrasts: A comparative study of vowels in Japanese and English”（共同発表）日本音響学会 2000年3月
4. ア. 医療研修推進財団委員
イ. 日本音声学会評議員
日本音声学会理事・編修委員長
日本音響学会査読委員・音響用語辞典執筆委員

1. 担当研究・事業課題名（科研費も含む）
2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もととするもの B. 所員が執筆・編集した単行本
C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文
E. 口頭・ポスター発表（予稿集あり） F. 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

小磯花絵（第2研究室研究員）

1.
 - ・日本人の話しことばに関する総合的研究
 - ・話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく「話し言葉工学」の構築
(科学技術振興調整費開放的融合研究制度)
 - ・会話コミュニケーションにおける韻律特徴の機能に関する実験的研究
(科学研究費 奨励研究(A) 代表者)
 - ・音声によるパラ言語情報の伝達メカニズムに関する実験的研究
(科学研究費 基盤研究(B) 分担者)
2. B. 「対話における繰り返し応答の韻律と機能」(共著) 音声文法研究会編『文法と音声』
くろしお出版 1999年6月
- C. 「円滑な話者交替はいかにして成立するか - 会話コーパスの分析にもとづく考察 -」
(共著) 『認知科学』7(1) 2000年3月
「談話研究を支える会話コーパス - その作成と利用法について -」 『日本語学』
10月号 1999年10月
- E. “An Experimental Study on the Informational and Grounding Functions of Prosodic
Features of Japanese Echoic Responses” (共同発表) European Speech
Communication Association, Veldhoven, The Netherlands, 1999年9月
“Design of Spontaneous Speech Corpus for Japanese” (共同発表),
the International Symposium - Toward the Realization of Spontaneous Speech
Engineering - Tokyo, Japan. 2000年2月
「共通日本語話し言葉コーパスの設計」(共同発表) 日本音響学会 2000年3月
3. イ. 『国語研の窓』
4. イ. 社会言語科学会大会運営委員

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

言語変化研究部

吉岡泰夫 (部長)

1.
 - ・日本人の話しことばに関する総合的研究
 - ・方言文法の総合的研究
 - 1. 方言文法・表現法地図作成のための研究
 - ・音声によるパラ言語情報の伝達メカニズムに関する実験的研究
(科学研究費 基盤研究(B)分担者)
2. B. 『日本語の話しことば』(共著)アルク 1999年8月
- C. 「発話の丁寧さの知覚におよぼす語彙的要因と韻律的要因の関係とその社会差」
(共著)『信学技報』99-353 電子情報通信学会 1999年10月
- 「共通語化と社会方言」『日本語学』18-13 明治書院 1999年11月
- E. 「方言談話資料の収録事業—NHK記録事業「ふるさと日本のことば」への提言—」
(共同発表)日本方言研究会第69回研究発表会 愛知県立大学 1999年10月
- 「対話インターアクションとしての敬語行動」第7回国立国語研究所国際シンポジウム第4専門部会 国立国語研究所 1999年12月
- ことばフォーラム 国立国語研究所 1999年11月
3. ア. 第7回国立国語研究所国際シンポジウム第4専門部会「談話のポライトネス」
ことばフォーラム
- イ. 『国語研の窓』
4. ア. NHK記録事業「ふるさと日本のことば」推進委員
- イ. 国語学会庶務委員長
日本方言研究会世話人
5. NHK総合テレビ「一都六県」出演
NHKラジオ第1「ふれあいラジオ・パーティー」出演
荒川区成人講座講師

大西拓一郎 (第1研究室室長)

1.
 - ・方言文法の総合的研究
 - 1. 方言文法・表現法地図作成のための研究
 - 2. 方言文法の記述とその通時的解釈に関する基礎的研究
 - ・文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究
(科学研究費 基盤研究(B)代表者)
2. B. 『日本列島方言叢書23~26九州方言考』(共編) ゆまに書房 1999年11月
- 『展望 現代の方言』(共編)白帝社 1999年11月
- C. 「方言の動詞と日本語史」『日本語学』18-5 明治書院 1999年5月
- 「新しい方言と古い方言の全国分布—ナング・ナカッタなど打消過去の表現をめぐって—」『日本語学』18-13 明治書院 1999年11月
- F. 「方言地図の見かた・読みかた」ことばフォーラム研究室公開 国立国語研究所 1999年11月
4. イ. 日本方言研究会幹事

1. 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

2. 成果公表活動

A. 国立国語研究所を刊行もととするもの	B. 所員が執筆・編集した単行本
C. 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文	D. 論文集等に掲載された論文
E. 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)	F. 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

5. 「地域とことば(1)ー日本の方言ー」小田原市成人学校ウインターセミナー114
日本語☆再発見 小田原市公民館 2000年2月

三井はるみ (第1研究室主任研究官)

1.
 - ・方言文法の総合的研究
 - ・文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究
(科学研究費 基盤研究 (B) 分担者)
 - ・条件表現に関する対照方言学的研究 (科学研究費 奨励研究 (A) 代表者)
2. A. 『新「ことば」シリーズ11 豊かな言語生活のために』国立国語研究所 2000年3月
『新「ことば」シリーズ12 言葉に関する問答集ー言葉の使い分けー』
国立国語研究所 2000年3月
- C. 「新刊・寸感」『日本語学』18-10 明治書院 1999年9月
「古い方言と古い方言の全国分布ー語彙ー」『日本語学』18-13 明治書院
1999年11月
「新刊・寸感」『日本語学』19-3 明治書院 2000年3月
- D. 「青森市方言の順接仮定条件表現の形式と用法の整理ー録音文字化資料を用いた
方言文法記述の試みー」佐藤武義編『語彙・語法の新研究』
明治書院 1999年9月
- F. 「方言地図の見かた・読みかた」ことばフォーラム 国立国語研究所 1999年11月
3. ア. 第7回国立国語研究所国際シンポジウム第4専門部会
イ. 『新「ことば」シリーズ』
4. ア. NHK記録事業「21世紀にのこしたいふるさと日本のことば」東京都域監修者
イ. 日本方言研究会幹事
ウ. 共立女子大学 非常勤講師
5. 「東京のことば、過去・現在・未来」荒川区教育委員会成人講座「21世紀の日本語」
荒川区立生涯学習センター 1999年7月
「神奈川の方言・小田原の方言」小田原市成人学校ウインターセミナー
「日本語☆再発見」小田原市中央公民館 2000年2月

中山典子 (第2研究室研究員)

1.
 - ・方言文法の総合的研究
3. イ. 『国語研の窓』

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

言語教育研究部

嶋村直己（第1研究室室長）

1. ・言語発達・言語教育・言語生活に関する総合的研究
 2. 言語発達・言語教育に関する多角的研究
2. B. 『生きてはたらく国語の力を育てる授業の創造—小学校国語教育実践講座—』（共著）
 第3巻 ニチブン 2000年
 『ちびまる子ちゃんのことわざ教室』（監修） 集英社 2000年
5. 10月15日毎日放送（大阪 ラジオ）に出演

當眞千賀子（第1研究室研究員）

1. ・言語発達・言語教育・言語生活に関する総合的研究
 3. 小学校の教室談話におけることばの多様性
 ・「学校言語教育の活動形態と談話構造に関する研究：日米の比較を通して」
 （科学研究費 奨励研究（A）代表者）
2. A. 「教室の談話」『新「ことば」シリーズ11 豊かな言語生活のために』
 国立国語研究所 2000年3月
 E. 「文化的学びの場としての学校実践の分析（1）：—学校実践への保護者の参加とその
 意味—」日本心理学会第63回大会 中京大学 1999年9月
 「学校実践に織り込まれた学びの多様性へのアプローチ」（自主シンポジウム
 ヴィゴツキアン・エスノグラフィー—発達研究としての相互行為分析—）
 日本発達心理学会第11回大会 東京女子大学 2000年3月
 F. シンポジウム「学習論の現在」パネルディスカッション 認知科学会—教育環境の
 デザイン研究分科会 筑波大学大塚キャンパス 1999年6月
 「学校実践コミュニティの多層性」国立民族学博物館研究会 2000年3月
 国立民族学博物館特別公開セミナー “Body, Practice, and Identity: The Shrine
 Dancers in Bangkok” 指定ディスカッション 2000年3月
3. ア. 第7回国立国語研究所国際シンポジウム全体会司会
 第7回国立国語研究所国際シンポジウム第4専門部会司会
4. ア. 東京学芸大学 海外帰国子女センター研究プロジェクト委員
 国立民族学博物館共同研究会委員
 ウ. 茨城大学文学部 集中講義講師

小高京子（第1研究室研究員）

1. ・言語発達・言語教育・言語生活に関する総合的研究
 3. 小学校の教室談話におけることばの多様性

1. 担当研究・事業課題名（科研費も含む）

2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もととするもの B. 所員が執筆・編集した単行本
 C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文
 E. 口頭・ポスター発表（予稿集あり） F. 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

情報資料研究部

熊谷康雄（第1研究室室長・第2研究室併任）

1.
 - ・日本語研究資源の形成と共有のための基盤に関する研究
 1. 研究成果の組織的蓄積と公開に関する研究
 - ・文献情報の収集・整理法に関する研究
 - ・収集・編集システムの高度化と効率化に関する基礎的研究
 - ・図書館情報システムの構築
 - ・計量的日本語研究文献のCD-ROM化とその利用技術の開発（分担者）
2. A. 『国語年鑑 1999年版』大日本図書 1999年12月
『国語学研究文献総索引』国立国語研究所・国語学会 1999年4月
（国立国語研究所ホームページより公開）
3. ウ. ネットワークの管理・運営
国立国語研究所ホームページの作成・管理・運営
所内ネットワークユーザサポート
図書館情報システムの管理運営
国語学研究文献総索引データ（国語学会との共同事業による）の整備・保守・公開
4. ウ. 専修大学文学部 非常勤講師

池田理恵子（第1研究室研究員）

1.
 - ・国語関係新聞記事の蓄積と活用の研究 ー索引情報と本文の活用ー
 - ・日本語教育総合シラバスの構築と教材開発指針の作成
2. A. 「場面2：職場におけるお茶出し・感謝と人間関係」
『「言語事象を中心とした我が国をとりまく文化摩擦の研究」
ビデオ刺激による言語行動意識調査報告書 分析編』
新プロ「日本語」第2班国立国語研究所チーム 国立国語研究所 1999年10月
『新「ことば」シリーズ12 言葉に関する問答集 ー言葉の使い分けー』
国立国語研究所 2000年3月
「国立国語研究所新聞記事見出しデータベース<モニター版>」（電子媒体）
内部資料 1999年5月
4. イ. 社会言語科学会事業委員会委員

辻野都喜江（第1研究室研究員）

1.
 - ・国語関係新聞記事の蓄積と活用の研究ー索引情報と本文の活用ー
2. A. 「国立国語研究所新聞記事見出しデータベース<モニター版>」（電子媒体）
内部資料 1999年5月

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

伊藤雅光 (第2研究室室長)

1. ・文献情報の収集・整理法に関する研究
2. A. 『国語年鑑 1999年版』大日本図書 1999年12月
C. 「ユーミンの言語学 (25)～(30)」月刊『日本語学』18-4～19-2 明治書院
1999年4月～2000年2月
「構造字彙論」『国語と国文学』76-5 東京大学国語国文学会 1999年5月
「電子メール通信のあいさつ言葉」『国文学 解釈と教材の研究』44-6 学燈社
1999年5月
E. 「作詞アンドロイド・ユーミン」人工知能学会第3回ことば工学研究会 大阪大学
1999年12月
4. イ. 計量国語学会委員・庶務主任
査読 国内雑誌5件
ウ. 埼玉大学大学院文化科学研究科 非常勤講師
5. 「ユーミン風の作詞をするアンドロイドって何なんだ?」『小西克哉のなんだ?なんだ!』《噂の大人倶楽部》出演 ラジオ文化放送 1999年4月

新野直哉 (第2研究室主任研究官)

1. ・文献情報の収集・整理法に関する研究
2. A. 『国語年鑑 1999年版』大日本図書 1999年12月
C. 「平成十年国語国文学界の展望・国語学—近代・現代(語彙)—」
『文学・語学』165 全国大学国語国文学会 1999年11月
「《気づかない意味変化》の一例「いやがうえにも」について—「いやがうえにも盛り上がる」とは?—」『国語学研究』39 東北大学文学部「国語学研究」刊行会 2000年3月
D. 「“のうてんき”の意味・表記について」『語彙・語法の新研究』明治書院 1999年9月

1. 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もととするもの B. 所員が執筆・編集した単行本
C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文
E. 口頭・ポスター発表 (予稿集あり) F. 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

井上文子（第2研究室主任研究官）

1.
 - ・方言録音文字化資料に関する研究
 - ・方言文法・表現法地図作成のための研究
 - ・方言文法の記述とその通時的解釈に関する基礎的研究
 - ・「全国方言談話資料データベース」に基づく方言文法の研究と検証調査（科学研究費 基盤研究（C）代表者）
 - ・全国方言談話資料データベース（科学研究費 研究成果公開促進費データベース分担者）
 - ・文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究（科学研究費 基盤研究（B）分担者）
 - ・方言のアスペクト・テンス・ムード体系変化の総合的研究（科学研究費 基盤研究（B）分担者）
2. C. 「ことばの情報基地 イエローページ 国立国語研究所図書館」『日本語学』18-7 明治書院 1999年6月
- D. 「談話資料による方言研究」真田信治編著『展望 現代の方言』白帝社 1999年11月
3. イ. 『第6回国立国語研究所国際シンポジウム報告書 国際社会と日本語』
ウ. 図書館業務
4. イ. 国語学会庶務委員
日本方言研究会幹事
ウ. 神戸YWCA学院専門学校日本語教師養成科 非常勤講師

齋藤達哉（第2研究室研究員）

1.
 - ・文献情報の収集・整理法に関する研究
 - 収集・編集システムの高度化・効率化に関する研究
 - ・国内外の日本語教育に関する情報の収集と発信
 - 日本語教育年鑑の作成
2. A. 『国語年鑑 1999年版』大日本図書 1999年12月
- C. 「言葉のルーツ」『日本医事新報』3944 1999年11月
- F. 「おもろさうし字彙データベースの構築—文字と語の研究のために—」
沖縄文化協会 1999年度公開研究発表会 沖縄県立芸術大学附属研究所
1999年5月

磯部よし子（第2研究室研究員）

1.
 - ・日本語研究資源の形成と共有のための基盤に関する研究
 - 1. 研究成果の組織的蓄積と公開に関する研究
3. イ. 『新「ことば」シリーズ』

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

横山詔一（電子計算機システム開発研究室主任研究官）

1. ・日本語研究資源の形成と共有のための基盤に関する研究
3. 新聞のJIS外漢字に関する数量的研究
2. B. 『パソコン悠悠漢字術—今昔文字鏡徹底活用—』（分担執筆）紀伊國屋書店
1999年4月
- C. 「文字・図形の認知—字体と感性—」（共著）『日本語学』18巻8号 明治書院
1999年8月
「電子メディアを対象とした日本語テキストデータ処理」（共著）『教育システム情報
学会誌』16巻3号 教育システム情報学会 1999年10月
「JIS外漢字の電子化手法と教材開発への応用」（共著）『愛知教育大学研究報告』
49輯（教育科学） 愛知教育大学 2000年3月
- D. 「電子メールの日本語」言葉をたずねて（国立国語研究所）第7回
『週刊文教ニュース』2000年3月
- E. 「新聞記事CD-ROMを用いた漢字熟語の頻度特性に関する調査研究」（共同発表）
The 2nd International Conference on Cognitive Science and the 16th Annual
Meeting of the Japan Cognitive Science Society Joint Conference
1999年7月
「毎日新聞における文字使用の変動」（共同発表）日本心理学会第63回大会
中京大学 1999年9月
「現代雑誌九十種を対象にした Word Length の分析」（共同発表）
日本心理学会第63回大会 中京大学 1999年9月
「インターネット上でJIS外漢字を処理する技法と教科書電子化への応用」
（共同発表）日本教育工学会第15回大会 富山大学 1999年10月
「大規模文字フォントデータベースを活用したJIS外漢字の電子化手法」（共同発表）
日本教育工学会第15回大会 富山大学 1999年10月
“The use of kanji in modern Japanese and the selection of kanji in
instruction”（共同発表），ATJ Seminar Association of Teacher of Japanese
2000年3月
3. ア. 国立国語研究所国際シンポジウム司会
イ. 『日本語科学』
ウ. 電子計算機システムの運営
ネットワークシステムの運営補助
4. ア. 計量国語学会委員
イ. 査読 国内雑誌7件
ウ. 津田塾大学英文学科 非常勤講師

米田純子（電子計算機システム開発研究室研究員）

1. ・日本語研究資源の形成と共有のための基盤に関する研究
2. 日本語データのデータベース構築
3. 新聞JIS外漢字に関する数量的研究
3. ウ. 電子計算機システムの運営
ネットワークシステムの運営管理

1. 担当研究・事業課題名（科研費も含む）

2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もととするもの B. 所員が執筆・編集した単行本
C. 学術雑誌，商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文
E. 口頭・ポスター発表（予稿集あり） F. 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

国語辞典編集室

田中牧郎（国語辞典編集室室長）

1.
 - ・国語辞典編集室コーパスの作成
 - ・言語研究に現れる術語の語誌的研究
 - ・話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく「話し言葉工学」の構築（科技厅開放的融合研究推進制度）
 - ・統語情報の分析に基づく古代情意述語の意味用法の研究（科学研究費 奨励研究（A）代表者）
2. A. 『新「ことば」シリーズ 12 言葉に関する問答集—言葉の使い分け—』
国立国語研究所 2000年3月
- C. 「国語辞典編集のための用例データベース」（共著）『日本語科学』5
国立国語研究所 1999年4月
- D. 「源氏物語のウレシとカナシー情意形容詞の統語情報の整理—」
佐藤武義編『語彙・語法の新研究』 明治書院 1999年9月
- E. 「話し言葉コーパスにおける単位切りと品詞付与の方法」（共同発表）
言語処理学会第6回年次大会 2000年3月
3. ア. ことばフォーラム
- イ. 『日本語科学』
『国語研の窓』
4. イ. 国語学会庶務委員
査読 国内雑誌2件
5. 小田原市成人学校「日本語☆再発見」講師 第6回「日本語の語源」2000年3月

山田貞雄（国語辞典編集室主任研究官）

1.
 - ・言語研究に現れる術語の語誌的研究
 - ・国語辞典編集室コーパスの作成
5. 富山市立図書館山田孝雄文庫目録編纂事業監修

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

小椋秀樹（国語辞典編集室研究員）

1.
 - ・国語辞典編集室コーパスの作成
 - ・話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく「話し言葉工学」の構築
（科学技術振興調整費による開放的融合研究推進制度）
2. A. 『新「ことば」シリーズ12 言葉に関する問答集—言葉の使い分け—』2000年3月
C. 「明治期の手紙文例集」『日本語学』19-2 明治書院 2000年2月
「うどんの話」『週刊文教ニュース』1562 2000年2月
E. 「はなし言葉コーパスにおける単位切りと品詞付与の方法」（共同発表）
言語処理学会第6回年次大会 北陸先端科学技術大学院大学 2000年3月
3. イ. 『国立国語研究所研究活動一覧（平成10年度）』
5. 「明治のことば—手紙のことばの世界—」成人学校「ウィンターセミナー114」
「日本語☆再発見」小田原市中央公民館 2000年3月

1. 担当研究・事業課題名（科研費も含む）

2. 成果公表活動

A. 国立国語研究所を刊行もととするもの	B. 所員が執筆・編集した単行本
C. 学術雑誌，商業雑誌等に掲載された論文	D. 論文集等に掲載された論文
E. 口頭・ポスター発表（予稿集あり）	F. 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

日本語教育センター

中野洋（センター長） ※平成11年12月21日死去

※以下の情報は、本書の作成にあたり、当委員会が収集したものである。

諸般の事情により、必ずしもすべての情報を網羅していない。

1.
 - ・国内外の日本語教育に関する情報の収集と発信
 - －インターネットによる日本語教育研究ネットワークの構築
 - －緊急に必要とする研究・事業課題－世界の言語研究機関調査－
 - ・外来語概観調査
2. A. 『外来語概観調査 中間報告』（共著）国立国語研究所 1999年11月
- C. 「言語研究に生きる数学」『SUT BULLETIN科学教養誌』184
東京理科大学出版会 1999年10月
「情報処理研究とターミノロジーから見た『分類語彙表』」（共著）
『情報知識学会誌』9-4 2000年2月
- E. 「中日対訳コーパスの作成状況と今後の課題」（共同発表）
『情報処理学会研究報告』99-NL-134 1999年11月
4. ア. 日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員
学術情報センター「中国との学術情報交流プロジェクト」オブザーバー
第22期国語審議会専門調査員
- イ. 言語処理学会理事・会誌編集委員

柳澤好昭（第1研究室室長） ※平成12年4月1日日本語教育センター日本語教育指導普及部日本語教育研修室
室長から配置換

1.
 - ・日本語教師教育の内容・方法と評価に関する研究
 - －日本語教育における能力測定と評価に関する研究－
 - 日本語教育能力評価に関する調査研究
 - 対象別日本語教育カリキュラムに関する調査研究
 - 高校日本語教育研究会の運営
 - 地域日本語教育研究会の運営
 - ・国内外の日本語教育に関する情報の収集と発信
 - 日本語教育資料の収集と『日本語教育年鑑』刊行
 - インターネットによる日本語教育研究ネットワークの構築
 - 日本語教育研究連絡協議会の開催
 - ・研修
 - 日本語教育相互研修ネットワーク
 - 日本語教育長期専門研修
 - 中等教員派遣前研修（文部省委託）
 - 『日本語教育論集』15 刊行
2. A. 『世論調査報告』国立国語研究所 2000年2月
国際シンポジウム第3専門部会「学校教育における言語の教育と学習」報告書
国立国語研究所新プロ 2000年3月
『日本語と外国語の対照研究Ⅶ－日本語とポルトガル語その2』（共著）
2000年3月
- C. 「ことばの情報基地 イエローページ」『日本語学』vol.18 7月号 明治書院
1999年7月
3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

- 「データを集める」『月刊日本語』7月号 アルク 1999年7月
「データを分析する」『月刊日本語』8月号 アルク 1999年8月
「日本語教師の情報リテラシー」日本語教育学会文化庁委嘱調査研究報告書
『日本語教育教員養成における新しい情報メディアの活用能力育成に関する調査研究
—日本語教員養成と情報リテラシー教育』(共著)日本語教育学会 2000年3月
平成11年度日本語教育学会調査研究委員会報告書「日本語教育の改善と推進の方策
に関する調査研究」日本語教育学会 2000年3月
- E. 「高校日本語教育アンケート調査集計」国際シンポジウム第3専門部会
「学校教育における言語の教育と学習」国立国語研究所 1999年8月
- F. 「地域の言語接触に関する調査研究—太田市日系ブラジル人の場合」国立国語研究
所ブラジル人と日本人との接触場面研究会 国立国語研究所 1999年8月
国立大学日本語教育研究協議会教員養成部会・大学日本語教員養成課程研究協議会
共同調査報告 文化庁日本語教育推進施策協力者会議配布資料 2000年1月
3. ア. 国際シンポジウム第3専門部会の運営
研修運営委員会の運営
教師教員研究委員会の運営
ビジネス日本語コミュニケーション研究会の運営
日本語教育研究会(長期専門研修修了生会)の運営
日本語教育相互研修ネットワーク地域研修会の実施
日本語教育研究連絡協議会の開催
高校日本語教育研究会の運営
地域日本語教育研究会の運営
- イ. 『日本語教育年鑑』創刊号の刊行
『日本語教育』15号の刊行
相互研修ネットワーク教材用地域研修会報告書の刊行
国際シンポジウム第三専門部会報告書の刊行
世論調査報告書の刊行
- ウ. LANの運営
日本語教育リソース・ルームの運営
平成10・11年度文部省科学研究費補助金採択課題(日本語教育周辺領域)データWeb
の公開
研修室・指導普及部のWebサイトの運営
4. ア. 文化庁高度情報化に対応した日本語教育の在り方に関する調査研究協力者会議衛星通
信ワーキンググループ委員
大学日本語教員養成課程研究協議会委員
- イ. 日本語教育学会評議員
日本語教育学会調査研究委員会委員長
日本語教育学会小セミナーの運営
- ウ. 文化庁日本語教育大会シンポジウム・パネリスト 昭和女子大学 1999年7月
日本語教育学会情報メディアシンポジウム第4分科会司会 昭和女子大学
1999年12月
名古屋大学留学生センター日本語メディアシステム開発部門(JEMS)設立記念シンポジ
ウム 名古屋大学 2000年3月
5. 「大田区役所日本語ステップアップ講座」山王会館 1999年12月,2000年1月
「東大和市日本語ボランティア育成講座」東大和市役所 1999年5月
「東京外国語大学REX計画講義」東京外国語大学 1999年4月
「日本語教育概論」朝日カルチャーセンター 1999年7月・8月・9月
マイクロソフト・オフィス10ユーザーテスター 1999年10月~1月

1. 担当研究・事業課題名(科研費も含む)

2. 成果公表活動
- | | |
|------------------------|---------------------|
| A. 国立国語研究所を刊行もととするもの | B. 所員が執筆・編集した単行本 |
| C. 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文 | D. 論文集等に掲載された論文 |
| E. 口頭・ポスター発表(予稿集あり) | F. 口頭・ポスター発表(予稿集なし) |

小河原義朗（第1研究室研究員） ※平成12年1月1日採用

1.
 - ・言語表現の意味・機能の普遍性と多様性に関する研究
 - ・外国人なまりに対する日本人評価の社会心理学的・実験音声学的研究
（科学研究費 奨励研究（A）代表者）
 - ・双方向通信による遠隔日本語学習支援システムの研究
（科学研究費 基盤研究（C）分担者）
2. B. 『教科書 社会心理学』（分担執筆 14章2・3節）北大路書房 2000年3月

熊谷智子（第2研究室室長）

1.
 - ・言語表現の意味・機能の普遍性と多様性に関する研究
2. A. 「調査の概要」（共著）『新プロ「日本語」第2班国語研チーム報告書
『「言語事象を中心とした我が国をとりまく文化摩擦の研究」ビデオ刺激による
言語行動意識調査報告書 分析編』国立国語研究所 1999年10月
「場面4：パスポート再発行依頼における謝罪行動」『新プロ「日本語」第2班国語研
チーム報告書「言語事象を中心とした我が国をとりまく文化摩擦の研究」ビデオ刺
激による言語行動意識調査報告書 分析編』国立国語研究所 1999年10月
- E. “Evaluation of Annotation Schemes for Japanese Discourse”（共同発表）
Workshop of the Association for Computational Linguistics, University of
Maryland, the Association for Computational Linguistics 1999年6月
3. イ. 『日本語科学』
4. ア. 人工知能学会対話コーパスワーキンググループ委員
イ. 査読 国内雑誌6件
ウ. 日本語教育学会研修講師

藤井聖子（第2研究室・併任） ※平成12年3月31日日本語教育センター第2研究室室長併任解除

1.
 - ・日本語と欧米諸言語との対照研究（その1）日西対照研究—動詞とその周辺—
 - ・日本語と欧米諸言語との対照研究（その2）ブラジル人と日本人との接触場面
 - ・言語表現の意味・機能の普遍性と多様性に関する研究
 - ・対照意味論・対照語用論的研究の方法と理論の構築
—日英語の談話における語用標識の研究—（科学研究費）
 - ・話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく「話し言葉工学」の構築
2. A. 『日西対照研究—動詞とその周辺— 公開研究発表会予稿集』国立国語研究所
1999年8月
『日本語とポルトガル語との対照研究：ブラジル人と日本人との接触場面 公開研究発
表会予稿集』国立国語研究所 1999年8月
『日本語とスペイン語(3)』国立国語研究所報告書対照研究シリーズ VI
2000年3月
『日本語とポルトガル語(2)：ブラジル人と日本人との接触場面』国立国語研究所対
照研究シリーズ VII 2000年3月
「在日日系ブラジル人と日本人との接触場面の分析—コミュニケーションストラテ
ジー再考—」『日本語とポルトガル語(2)：ブラジル人と日本人との接触場面』
3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

- 国立国語研究所対照研究シリーズ VII 2000年3月
「ブラジル人と日本人との接触場面：序論」『日本語とポルトガル語(2)』
国立国語研究所対照研究シリーズ VII 2000年3月
「日西対照研究—動詞とその周辺—：序論」『日本語とスペイン語(3)』
国立国語研究所対照研究シリーズ VI 2000年3月
- B. “Incipient decategorization of MONO and grammaticalization of speaker attitude in Japanese discourse.” In Andersen, G. & T. Fretheim (Eds.), *Pragmatic markers and propositional attitude*, John Benjamins Publishing Company 2000
- D. “A corpus-based study of reduced conditionals in Japanese conversation.” *Selected Papers from the 12th World Congress of Applied Linguistics. International Congress of Applied Linguistics (Ed.)* 2000年(電子媒体)
- E. “Types of deontic modal constructions in Japanese: a Construction Grammar Approach” Theme Session “Cognitive and Cross-Linguistic Aspects of Construction Grammar”, the 6th International Cognitive Linguistics Conference, Stockholm, Sweden. 1999年7月
「在日日系ブラジル人と日本人との接触場面の一分析—コミュニケーションストラテジー再考—」日本語とポルトガル語との対照研究：ブラジル人と日本人との接触場面公開研究発表会 国立国語研究所 1999年8月
「認識的モダリティと“その周辺”との関連文化化・多義性分析の観点から」第7回国際シンポジウム第6専門部会 国立国語研究所 2000年3月
- F. “A corpus-based study of reduced conditionals in Japanese conversation.” *The 1999 World Congress of Applied Linguistics, Tokyo* 1999年8月
3. ア. 「日西対照研究—動詞とその周辺—」公開研究発表会
「日本人とブラジル人ととの接触場面」公開研究発表会
第7回国際シンポジウム第4専門部会 談話のポライトネス 司会
- イ. 『日本語科学』
4. イ. 査読 国内雑誌3件 海外出版社・著書1件

宇佐美 洋 (第3研究室研究員)

1. ・タイ語・カンボジア語の韻律の対照と、日本語教育への応用
(科学研究費 奨励研究(A) 代表者)
・タイ語・カンボジア語の韻律パタンの対照と、日本語教育への応用
(科学研究費 基盤研究(B) 分担者 2000年1月より中野洋に代わり代表者)
・日本語教育のためのアジア諸言語の対訳作文データの収集とコーパスの構築
2. B. 「言語学概論」『日本語教育講座 III 言語学 日本事情』(共著)
千駄ヶ谷日本語教育研究所 1999年4月
『世界のことば100語辞典(アジア編)』(共著, タイ語部分担当)
石井米雄・千野栄一編(共著)三省堂 1999年6月
- C. 「『日本事情』関連ホームページから」『21世紀の「日本事情」—日本語教育から文化リテラシーへ』「21世紀の『日本事情』」編集委員会編 くろしお出版
1999年10月
『岩波講座 言語の科学2 音声』書評『音声研究』第222号 日本音声学会
1999年12月
- D. 「イントラネットを用いた多方向的日本語教育—論理的思考・文章構成力の養成を目指して—」(共同執筆)『電気通信普及財団研究調査報告書』No.14-I
財団法人電気通信普及財団 2000年2月

1. 担当研究・事業課題名(科研費も含む)

2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もととするもの B. 所員が執筆・編集した単行本
C. 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文
E. 口頭・ポスター発表(予稿集あり) F. 口頭・ポスター発表(予稿集なし)

「複数大学の合同合宿による多文化ワークショップ」(共同執筆)『大学教育研究年報』
第5号 新潟大学大学教育開発研究センター(『多文化クラスの大学間および地域相互
交流プロジェクトの実施と評価に関する研究・研究成果報告書』にも再録)

2000年3月

「多文化クラスにおけるビデオ番組制作—その学習効果と今後の課題—」『多文化ク
ラスの大学間および地域相互交流プロジェクトの実施と評価に関する研究・研究成
果報告書』平成9-11年度科学研究費 基盤研究(C) 研究代表者:土屋千尋 2000
年3月

E. 「実践報告:コミュニケーション教育としての日本事情教育—複数大学の日本人・留
学生合同合宿を通して—」(共同発表)平成11年度日本語教育学会春季大会(『多文
化クラスの大学間および地域相互交流プロジェクトの実施と評価に関する研究・研
究成果報告書』にも再録) 1999年5月

「多文化クラスの学生および教師の心情面での変化—複数大学の合同合宿における事
前・事後アンケートの結果から—」(共同発表)異文化間教育学会1999年大会(『多
文化クラスの大学間および地域相互交流プロジェクトの実施と評価に関する研究・
研究成果報告書』にも再録) 1999年5月

「イントラネット上での多方向的日本語作文指導」(共同発表)

第13回日本語教育方法研究会 1999年9月

「初級段階でのプロジェクトワークにおける教師の役割—フィードバックの一事例か
ら—」(共同発表)第4回国際日本語教育・日本研究シンポジウム 1999年11月

「パオ語2方言の音韻体系と、その音変化の方向性—音節構造の観点から—」

日本言語学会第119回大会 1999年11月

4. イ. 査読 国内雑誌1件

ウ. 1999年8月31日まで新潟大学留学生センターと併任
新潟大学留学生センター(集中講義)

井上優(第4研究室主任研究官)

1.
 - ・言語表現の意味・機能の普遍性と多様性に関する研究
 - ・文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究
(科学研究費 基盤研究(B) 協力者)
 - ・東アジア諸語のカテゴリー化と文法化に関する対照研究
(科学研究費 基盤研究(B) 協力者)

2. A. 「「ことばのしくみ」について考える」『新「ことば」シリーズ11 豊かな言語生活の
ために』国立国語研究所 2000年3月

C. 「モダリティの類型論〈2〉—日中両語の疑問文の機能をめぐって—」

『月刊言語』28-6 大修館書店 1999年6月

「状況認知と終助詞—「ね」の機能—」『日本語学』18-8 明治書院 1999年8月

3. イ. 『日本語科学』
『新「ことば」シリーズ』

4. イ. 国語学会庶務委員(～1999年8月)

査読 国内雑誌 6件

海外雑誌 1件

ウ. 神田外語大学 非常勤講師(～1999年7月)

北京日本学研究中心派遣教授(1999年8月～2000年7月)

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

日本語教育指導普及部

佐々木倫子（部長）

1.
 - ・日本語コミュニケーション能力に関する国際共同研究
 - ・日本語学習の内容と方法に関する開発的研究
－日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成－
 - ・国内外の日本語教育に関する情報の収集と発信
 - ・国立国語研究所国際シンポジウム開催
2. A. 「場面3：失敗に対する謝罪・言い訳」『国際社会における日本語についての総合的研究 研究班2 言語事象を中心とした我が国をとりまく文化摩擦の研究 分析編』国立国語研究所チーム 1999年10月
「日系ブラジル人児童の日本語教育－ハワイの事例との対照－」『日系ブラジル人のバイリンガリズム』国立国語研究所 2000年3月
- C. 「手のひらの言語学 質問4」『言語』5月号 Vol.28 No.5 大修館書店 1999年4月
「教科書を使いこなす－30年の教育経験から見えてきたこと－」『月刊 日本語』9月 アルク 1999年9月
『日本事情』の教育方法－ビデオを用いた3地域意識調査から－『21世紀の「日本事情」－日本語教育から文化リテラシーへ』創刊号『日本事情』研究会（編）くろしお出版 1999年10月
- E. 「国立国語研究所日本語教育センターにおける日本語教育研究・教育実践の支援について」お茶の水女子大学大学院人間文化研究科国際日本学専攻シンポジウム 1999年7月
「社会文化知識の役割」日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成中間報告会 第3分科会 1999年12月
「認識モダリティ周辺の日英対照例－意見文から－」国立国語研究所国際シンポジウム第6専門部会 2000年3月
- F. “Mitigation forms in Japanese and English opinion-giving essays: Comparative and pedagogical study of -to omou ‘I think’”. AILA’ (国際応用言語学会) 99 1999年8月
3. ア. 「日系ブラジル人のバイリンガリズム」国際シンポジウム第1専門部会 1999年7月
「バイリンガリズム－日本と世界の連携を求めて」国際シンポジウム全体会 1999年7月
「日本語教育の国家的標準」国際シンポジウム第5専門部会 1999年10月
「日本語総合シラバスの構築に向けて」公開研究発表会 1999年12月
「認識のモダリティとその周辺－日本語・英語・中国語の場合－」国際シンポジウム第6専門部会 2000年3月
4. ア. 国際教育振興協会 評議員・専門委員
(財)アジア福祉教育財団難民事業本部 難民日本語学習援助委員会委員
- イ. 日本語教育学会 常任理事・新日本語教育事典編集委員
日本語教育学会平成11年度日本語教育研究コース講師
査読 国内雑誌4件
5. 平成11年度文化庁「日本語教育衛星通信講座」コメンテーター1999年11月
「中南米日系社会に於ける日本語教師論」国際協力事業団
日系社会ボランティア派遣前研修 2000年1月

1. 担当研究・事業課題名（科研費も含む）

2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もととするもの B. 所員が執筆・編集した単行本
C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文
E. 口頭・ポスター発表（予稿集あり） F. 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

- 「日本語教育関係情報の共有化」第2回日本語教育推進会議「情報ネットワークを活用した日本語教育支援」文化庁文化語課 2000年1月
 「中南米日系社会に於ける日本語教育の流れと現状」国際協力事業団
 日系社会シニア・ボランティア派遣前研修 2000年2月
 「対照言語論合同授業」JET 青年日本語教育研修 自治体国際化協会
 2000年2・3月
 日本語教科書開発調査報告書担当「考察と展望」『日本語教科書開発基礎調査』
 国際協力事業団 2000年3月

石井恵理子（日本語教育研修室室長）

1.
 - ・日本語教育研修
 - ・日本語教育研修の内容・方法と評価に関する研究
 - ・児童生徒に対する日本語教育のカリキュラムに関する国際的研究（特別研究）
 - ・専門分野別漢字語彙教材データベースの開発に関する研究
 （科学研究費 基盤研究（B）分担者）

 2. A.
 - 「ポルトガル語を母語とする在日外国人児童生徒の言語教育に関する父母の意識」
 『日系ブラジル人のバイリンガリズム』 国立国語研究所 2000年3月
 - 『新「ことば」シリーズ12 言葉に関する問答集—言葉の使い分け—』
 国立国語研究所 2000年3月
 - 『ビデオ刺激による言語行動意識調査報告書<分析編>』文部省科学研究費（創成的
 基礎研究）「国際社会における日本語についての総合的研究」研究第2班「言語事象
 を中心とした我が国をとりまく文化摩擦の研究」報告書 国立国語研究所
 1999年10月
 - 日本語教育相互研修ネットワーク地域研修会報告書『地域日本語教育の可能性をさぐ
 る—多様化する日本語教室—』（共著） 国立国語研究所日本語教育センター
 1999年5月
 - 日本語教育相互研修ネットワーク地域研修会報告書『第1回シンポジウム多文化社会
 における共生 in 長崎』（共著） 国立国語研究所日本語教育センター 1999年6月
 - 日本語教育相互研修ネットワーク地域研修会報告書『在日外国人の日本語学習を考え
 る集い』（共著） 国立国語研究所日本語教育センター 1999年6月
 - 日本語教育相互研修ネットワーク地域研修会報告書
 『「こんにちは」から始めよう—日本語ボランティアができること—』（共著）
 国立国語研究所日本語教育センター 1999年6月
 - 日本語教育相互研修ネットワーク地域研修会報告書『地域で支える日本語教育'98 東
 北』（共著） 国立国語研究所日本語教育センター 1999年6月
 - B. NHK日本語講座『にほんごでくらそう』4・5月号 6・7月号 8・9月号
 （共著）NHK 放送出版会 1999年4月～9月
 - C. 「新刊・寸感」『日本語学』 1999年6月号・12月号 明治書院 1999年6月12月
 「入門日本語教育研究—研究を続けるために」『月刊日本語』2月号 アルク
 2000年2月
 「入門日本語教育研究—学会に参加する」『月刊日本語』3月号 アルク
 2000年3月
 - D. 「衛星通信を利用した日本語教育について」『衛星通信を活用した日本語教育の推進』
 文化庁文化語課 1999年3月
 平成11年度日本語教育学会調査研究委員会報告書『日本語教育情報の流通と日本語教
 育研究の活性化に向けて』（共著）日本語教育学会 2000年3月
 - E. 「ポルトガル語を母語とする在日外国人児童生徒に対する言語教育に関する父母の意
3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
 4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

- 識」第7回国立国語研究所国際シンポジウム第1専門部会 国立国語研究所
1999年7月
「割り込み行動とそれに対する反応についての調査結果から」韓国における日本語教育を考える会 新羅大学校 1999年10月
- F. “Parents’ Attributes and Parents’ Attitudes/Beliefs.”
In Symposium: A Multiperspective study of Minority Language Children in Japan.
第12回国際応用言語学会世界大会 早稲田大学 1999年8月
3. イ. 『新「ことば」シリーズ』
『日本語教育論集』
4. イ. 日本語教育学会評議員
日本語教育学会研修委員会委員
日本語教育学会調査研究委員会委員
査読 国内雑誌4件
- ウ. 学習院大学 非常勤講師
5. NHK日本語講座「にほんごでくらそう」1999年4月～9月放送 (NHK教育テレビ)
(再放送 1999年10月～2000年3月, 2000年4月～9月) 番組制作の監修
第3分科会「多様なニーズに応じた教育内容・方法; 教材開発・利用について」
平成11年度文化庁日本語教育研究協議会東京会場 文化庁 1999年7月
「学校での日本語指導における課題」大宮市教育研究所日本語指導法研修 大宮市立
教育研究所 1999年9月
「衛星通信を利用した教員研修」ファシリテータ 平成11年度文化庁「日本語教育
衛星通信講座」文化庁 1999年11月
「子どもと国際化」平成11年度埼玉県保育所外国人保育実践セミナー 全国保育協
会埼玉支部 1999年11月
「統合的学習活動の設計」平成11年度在住外国人等支援事業「日本語教授法実力養
成講座」岩手県国際交流協会 1999年11月
「日本語教育に取り組む教師の資質向上」汎米日本語教師合同研修会 (ポリヴィア)
国際協力事業団 2000年1月

ロラン・マリージョゼ (日本語教育研修室研究員)

1. ・日本語教育研修
・日本語教育研修の内容・方法と評価に関する研究
・「日本語教育へのコミュニケーション能動的受容理論の導入に関する研究」
(科学研究費 奨励研究 (A) 代表者)
・「日本企業における外国人就労者の関係調整能力に関する総合研究」
(科学研究費 基盤研究 (C) 分担者)
2. A. 「コミュニケーション関連文献等情報一覧」『教室における異文化間コミュニケーションの評価における研究』(平成9年度～平成11年度科学研究費補助金研究 基盤研究 (C) 研究報告書 資料編) 国立国語研究所日本語教育センター 2000年3月
- C. “Communication et langage: la gestion d’une entreprise japonaise en contexte pluriethnique” (コミュニケーションと言語: 多民族的概念における日本企業の運営) DARUMA, Revue internationale d’études japonaises (『ダルマ』, 日本研究の国際的書誌) Ed. Philippe Picquier, Université Toulouse-LeMirail, France, No. 6/7
“Communication, Work, language and Apprenticeship: The Case of Japanese and
1. 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)
2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もとするもの B. 所員が執筆・編集した単行本
C. 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文
E. 口頭・ポスター発表 (予稿集あり) F. 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- Malaysian Co-Workers in a Japanese Plant in Malaysia” (The Fourth International Symposium of Japanese Language Education and Japanese Studies 第4回国際日本語教育・日本研究シンポジウム Japanese Language Education and Japanese Studies in Asia-Pacific : Current Trends and Future Directions 「アジア太平洋地域における日本語教育・日本研究：現在と展望」香港理工大学 Hong Kong, Hong Kong Polytechnic University, novembre 1999
- E. 「本当の学習者の声を聞くって何だろう？」JALT「学習者の声を聞く会」1999年7月
「成人就労学習者と教育の社会・文化的側面について考える」ラウンドテーブルコーディネーター 第20回異文化教育学会 鳴門教育大学 1999年5月
3. ア. 成人就労学習者に関する比較研究会 (5)
4. ア. Joint Centre for Asia Pacific Communication Research 科学委員会委員委員
イ. DARUMA, Revue internationale d'études japonaises, フランス (『ダルマ』日本研究の国際書誌) の 科学委員会委員

杉本明子 (日本語教育研修室研究員)

1. ・日本語教育研修の内容・方法と評価に関する研究
・日本語教育へのコンピュータ・ネットワーク導入の効果に関する研究 (科学研究費 奨励研究 (A) 代表者)
・日本語教育長期専門研修
・日本語教育相互研修ネットワーク
・中等教員派遣前研修
2. C. 「短大生の短期アメリカ研修の効果に関する研究 -アメリカ人のステレオタイプと英語力の自己評価への影響-」(共著)『留学生教育』4 広島大学留学生センター 2000年3月
E. 「異なる対話形式が生物学理論の学習に与える効果」日本教育心理学会第41回総会 甲南女子大学 1999年8月
「在日留学生の日本語学習動機と日本語習得」(共同発表) 国立国語研究所公開研究発表会 国立国語研究所 1999年12月
F. “The effects of different styles of interaction on the learning of evolutionary Theories”. Paper presented at the Center for the Study of Reading, University of Illinois 1999年5月
「在日留学生の日本語学習動機と日本語習得」(共同発表) 日本語教育学会 1999年度 第9回研究集会 東北大学 1999年12月
3. ア. 第7回国立国語研究所国際シンポジウム第1専門部会事務局
イ. 『日系ブラジル人のバイリンガリズム』
『日本語教育論集』
4. イ. 査読 国内雑誌4件

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

早田美智子（日本語教育研修室研究員）

1. ・国内外の日本語教育に関する情報の収集と発信
－日本語教育関係資料の収集・提供
－日本語教育年鑑の作成
2. A. 「場面1(2)：ぶつかったときの対応」『ビデオ刺激による言語行動意識調査報告書 分析編』 国立国語研究所 平成11年10月
C. 「入門日本語教育研究5 基本文献・先行文献の調べ方」『月刊日本語』アルク 平成11年8月
3. イ. 『日本語教育年鑑』
『第7回国立国語研究所国際シンポジウム発表予稿集 バイリンガリズム－日本と世界の連携を求めて－』
『第7回国立国語研究所国際シンポジウム報告書 バイリンガリズム－日本と世界の連携を求めて－』
ウ. 日本語教育センター資料室業務
日本語教育センター関係機関リスト作成保守

中道真木男（日本語教育教材開発室室長） ※平成12年3月31日転出

1. ・日本語教育の内容と方法に関する開発的研究
－日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成－
2. A. 『新「ことば」シリーズ12 言葉に関する問答集－言葉の使い分け－』
国立国語研究所 2000年3月
B. 『日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」解説書』（国立国語研究所日本語教育教材開発室企画・監修（平11-1））日本シネセル 2000年3月
C. 「日本語学習者と「あいさつ」」（共著）『国文学』44巻6号 1999年6月
E. 「映像から情報を読み取る」国立国語研究所日本語教育教材開発室主催「視聴覚教材フォーラム5」ワークショップ 1999年10月
「総合シラバスの構想と研究経過」平成11年度国立国語研究所公開研究発表会「日本語総合シラバスの構築に向けて」 1999年12月
「学習内容の立体化と映像」国立国語研究所日本語教育教材開発室主催「視聴覚教材フォーラム5」公開発表会 1999年12月
「「自然な」談話例を作る」社会言語学会ワークショップ 1999年8月
F. 「「言語問題」と「日本語学習支援」」明治学院大学外国語教育研究所講演会 1999年12月
3. ア. 平成11年度公開研究発表会
「視聴覚教材フォーラム5」
4. ア. 平成11年度「日本留学のための新たな試験」調査研究協力者会議日本語専門小委員会委員

1. 担当研究・事業課題名（科研費も含む）
2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もととするもの B. 所員が執筆・編集した単行本
C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文
E. 口頭・ポスター発表（予稿集あり） F. 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

福永由佳（日本語教育教材開発室研究員）

1. ・日本語学習の内容と方法に関する開発的研究
2. C. 「日本語教授法文献における教授活動の記述に関する研究」（共著）『JALT 日本語教育論集 4』 全国語学教育学会日本語教育研究部会 1999年10月
- E. 「「日本語教授法」関連文献に見られる教授活動の記述に関する研究」（共同発表）第8回小出記念日本語教育研究会 東京女子大学 1999年7月
- 「学習手段の概念」「日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成」中間報告会 国立国語研究所 1999年12月
- 「接触場面の伝達行動：「確認」の記述と分析」（共同発表）平成11年度国立国語研究所公開研究発表会 国立国語研究所 1999年12月
- 「学習手段データベースの試み：教師のための授業設計システムの開発」（共同発表）平成11年度国立国語研究所公開研究発表会 国立国語研究所 1999年12月
- 「「接触場面」の談話における「確認」（共同発表）第14回日本語教育方法研究会 東京学芸大学 2000年3月
- 「成人就労学習者にとっての日本語教育とは」異文化観教育学会第20回大会 鳴門教育大学 1999年5月
3. ア. 「日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成」中間報告会 平成11年度国立国語研究所公開研究発表会 第7回国際シンポジウム全体会「映像教材モニター」報告会第1～4回 視聴覚教材フォーラム5
- イ. 『日本語教育年鑑2000年版』
- ウ. 「日本語教育映像教材初級編」検討会主宰見学対応
- 「日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成」部会・作業部会に関する委員会 および打ち合せ開催
4. イ. 全国語学教育学会日本語教育研究部会論集委員

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援

4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他



平成11年度

研究部会議・研究発表一覧

所内委員会委員一覧

見学者一覧

招へい研究員一覧

外国人研究員等受入一覧

外国出張一覧

平成11年度研究部会議・研究発表一覧

氏名

発表題目

池田理恵子・辻野都喜江

「国立国語研究所新聞記事データベース
一言葉に関する記事 1949年～現在」

尾崎喜光

「日本語社会における言語行動の多様性」

宇佐美洋

「パオ語2方言の音韻構造」

嶋村直己

「幼児の文字力の発達と話しことば・書きことばの発達」

井上優

「テンス・アスペクトの比較対照－日本語・朝鮮語・中国語－」

中野洋・柏野和佳子・佐渡島紗織

「外来語概観調査（進捗状況報告）」

相澤正夫

「パラ言語的意味の記述に向けて」

山崎誠

「複合辞用例集の作成について」

堀江プリヤー

「『マイペンライ』－タイ人の言語行動を特徴づける言葉と
(東京学芸大学) その文化的背景についての考察 その2：タイ日対照研究－」

前川喜久雄・吉岡泰夫

「発話の丁寧さの知覚におよぼす
語彙的要因と韻律的要因の関係とその社会差」

宇佐美洋

「日本語学習者による作文とアジア諸言語との対訳コーパス」

平成11年度所内委員会委員一覧 (◎印：委員長 ○印：副委員長 ※印：庶務部職員)

外部評価実施委員会

◎甲斐睦朗 ○杉戸清樹 相澤正夫 加藤安彦 中野洋 中道真木男
前川喜久雄 横山詔一 吉岡泰夫 桐岡博道*

移転問題検討委員会

◎甲斐睦朗 相澤正夫 宇佐美洋 江川清 大西拓一郎 小椋秀樹
小高京子 小磯花絵 佐々木倫子 杉戸清樹 辻野都喜江 中野洋
中道真木男 山崎誠 吉岡泰夫 米田正人 桐岡博道* 原國正*
白數進* 木村二郎*

将来計画委員会

◎杉戸清樹 ○中道真木男 石井正彦 井上優 加藤安彦 熊谷康雄
嶋村直己 田中牧郎 塚田実知代 中野洋 前川喜久雄 三井はるみ
横山詔一 吉岡泰夫 加藤順二* 横山貞哉* 木村二郎*

大学院設置検討委員会

◎甲斐睦朗 相澤正夫 佐々木倫子 杉戸清樹 中野洋 中道真木男
柳澤好昭 横山詔一 桐岡博道* 原國正* 白數進*

中期計画等検討ワーキンググループ

◎甲斐睦朗 ○杉戸清樹 相澤正夫 加藤安彦 熊谷康雄 中道真木男
桐岡博道*

国立国語研究所国際シンポジウム企画委員会

◎甲斐睦朗 相澤正夫 江川清 佐々木倫子 杉戸清樹 吉岡泰夫
米田正人 中野洋 桐岡博道* 原國正* 白數進*

第7回国立国語研究所国際シンポジウム事務局

中道真木男 早田美智子

図書委員会

◎相澤正夫 井上文子 小椋秀樹 熊谷智子 當眞千賀子 新野直哉
早田美智子 三井はるみ

レクリエーション委員会

◎米田正人 石井恵理子 柏野和佳子 三浦勝広* 渋谷進*

電子計算機導入検討委員会

◎江川清 ○斎藤秀紀 大西拓一郎 熊谷康雄 前川喜久雄 柳澤好昭
山崎誠 横山詔一

ネットワーク委員会

◎江川清 熊谷康雄 前川喜久雄 柳澤好昭 山崎誠 横山詔一

『国立国語研究所研究活動一覧』作成委員会

◎杉戸清樹 大西拓一郎 小椋秀樹 小沼悦 當眞千賀子 中山典子
山崎誠

国立国語研究所『日本語科学』編集委員会

◎江川清 井上優 熊谷智子 鈴木美都代 田中牧郎 塚田実知代
藤井聖子 横山詔一 大島資生

『新「ことば」シリーズ』編集刊行委員会

◎杉戸清樹 石井恵理子 磯部よし子 井上優 三井はるみ

企画広報委員会

◎吉岡泰夫 中山典子 柳澤好昭 田中牧郎 小磯花絵 桐岡博道*
原國正* 白敷進*

平成11年度見学者一覧

※ 以下にあげたものは、公的な依頼を受けたものである。
そのほかにも、国の内外から随時来訪者があり、関係する研究職員が対応した。

見学日

見学者

平成11年

7月15日	東京都北区教育会中学国語部教師 (15名)
7月15日	国際交流基金 日本語国際センター (24名)
11月15日	東京都高等学校国語研究会 (20名)
11月26日	(財)霞山会 (22名)
12月22日	明海大学 外国語学部学生 (20名)

平成11年度招へい研究員一覧

氏名 / 国籍	所属 / 期間
カネギ・ルース (アメリカ合衆国)	オレゴン大学東アジア言語・文学部助教授 平成11年4月1日～平成12年8月31日
曹 大峰 (中華人民共和国)	山東大学日本研究センター副所長 教授 平成11年7月30日～平成12年3月29日
マエフスキー・エヴゲニー・ ヴィクトロヴィチ (ロシア共和国)	モスクワ国立総合大学附属アジア・アフリカ諸国大学 日本語・日本文学講座 主任教授 平成11年8月1日～平成12年3月31日
宮城紀美 (日本国)	平成11年11月11日～平成12年3月31日

平成11年度外国人研究員等受入一覧

(新規受入者および平成11年度在籍外国人研究員等を含む)

氏名 / 国籍	所属 / 期間	指導教官
陳真 (中華人民共和国)	中国国際放送局特任教授 平成11年3月1日～平成12年2月28日	中野洋
プレム・モトワニ (インド共和国)	ジャハラル・ネール大学教授 平成11年5月15日～平成11年8月14日	石井正彦
ポリー・ザトラウスキー (アメリカ合衆国)	ミネソタ大学アジアスラブ言語文学部準教授 平成11年6月28日～平成11年9月1日	佐々木倫子

平成11年度外国出張一覧

※ 以下にあげたものは、公費による出張のみである。

氏名	用務 / 用務先 / 期間
前川喜久雄	「ICPHS99 (国際音声科学会議)」での研究発表 アメリカ合衆国 平成11年7月30日～平成11年8月9日
井上優	北京日本学研究中心への派遣教授 中華人民共和国 平成11年8月25日～平成12年7月14日
小磯花絵	「ESCA」Workshop on Discourse and Prosodyへの参加および調査 オランダ 平成11年8月31日～平成11年9月5日
前川喜久雄	研究機関の視察 アメリカ合衆国 平成11年10月17日～平成11年10月27日
加藤安彦	研究機関の視察 アメリカ合衆国 平成11年10月17日～平成11年10月27日
能波由佳	調査打ち合わせ マレーシア 平成11年11月28日～平成11年12月3日
前田 (宇佐美) 洋	研究打ち合わせ タイ・ヴェトナム 平成11年11月30日～平成11年12月10日
加藤安彦	研究機関の視察 イギリス・フランス 平成11年12月12日～平成11年12月19日
石井恵理子	汎米日本語教師合同研修会 ボリビア 平成12年1月8日～平成12年1月17日

米田正人

外国教育施設日本語指導教員派遣事業に係わる日本語教育事情調査
ニュージーランド
平成12年2月12日～平成12年2月18日

前川喜久雄

研究打ち合わせ
アメリカ合衆国
平成12年2月14日～平成12年2月19日

平成 1 1 年度
国立国語研究所刊行物一覽

平成11年度国立国語研究所の刊行物

書名	市販品刊行元	刊行年月
年鑑		
『国語年鑑』1999年版	大日本図書	平成11年12月
国立国語研究所報告		
116『日本語基本語彙—文献解題と研究—』	明治書院	平成12年 3月
日本語と外国語との対照研究		
VI『日本語とスペイン語(3)』	くろしお出版	平成12年 3月
VII『日本語とポルトガル語(2): ブラジル人と日本人との接触場面』	くろしお出版	平成12年 3月
日本語科学		
『日本語科学』5	国書刊行会	平成11年 4月
『日本語科学』6	国書刊行会	平成11年10月
新「ことば」シリーズ (平成10年度までは文化庁国語課編・大蔵省印刷局刊行)		
11『豊かな言語生活のために』	大蔵省印刷局	平成12年 3月
12『言葉に関する問答集—言葉の使い分け—』	大蔵省印刷局	平成12年 3月
国立国語研究所国際シンポジウム報告書		
『国際社会と日本語』 (第6回全体会 平成10年12月16日～17日開催)	凡人社	平成11年 9月
『バイリンガリズム—日本と世界の連携を求めて—』 (第7回全体会 平成11年 7月24日開催)	凡人社	平成12年 3月
『日系ブラジル人のバイリンガリズム』 (第7回専門部会 平成11年 7月24日開催)	凡人社	平成12年 3月

その他内部資料等

【日本語教育論集】

『日本語教育論集』15 平成11年 6月

【相互研修ネットワーク報告書一覧】

『地域日本語教育の可能性をさぐるー多様化する日本語教室ー』 平成11年 5月

『東海日本語ネットワーク 活動報告書』 4 平成11年 5月

『第1回シンポジウム多文化社会における共生in長崎』(CD-ROM) 平成11年 6月

『在住外国人の日本語学習を考える集い』 平成11年 6月

『「こんにちは」から始めようー日本語ボランティアができることー』 平成11年 6月

『地域で支える日本語教育 '98東北』 平成11年 6月

『報告書 自律学習の支援体制づくり』 平成11年 8月

平成11年度文部省科学研究費補助金等による刊行物

※ 国立国語研究所が直接関係したもののほかに、研究所あるいは研究員がふかく関与した外部代表者によるものを含んでいる。

創成的基礎研究

書名	刊行年月
言語生活・言語行動	
『ビデオ刺激による言語行動意識調査報告書分析編』	平成11年10月
その他	
『「初等中等教育と国語教育・日本語教育」最終年度報告書』	平成11年12月

『国立国語研究所研究活動一覽』
作成委員会

杉戸 清樹

大西拓一郎

小河原義朗

小椋 秀樹

尾崎 喜光

小高 京子

小沼 悦

国立国語研究所研究活動一覽（平成11年度）

Annual Report of Research Activities
The National Language Research Institute
April 1999 - March 2000

平成13年3月31日 発行

編集：『国立国語研究所研究活動一覽』
作成委員会

発行：国立国語研究所

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

電話：03(3900)3111（代表）

FAX：03(3906)3530

URL：<http://www.kokken.go.jp>

（平12-16）